

第11回マニフェスト大賞

11月11日、六本木ヒルズにて『第11回マニフェスト大賞・授賞式』が開催されました。今年も全国から2514件の様々な政策提言やマニフェストの取り組みの応募があり、10月5日にはマニフェスト賞議会部門は5件の優秀賞に絞られました。この日は最優秀賞が塚本壽雄早稲田大学公共経営大学院教授から発表されて、黒川まさるさんが見事最優秀賞を受賞しました。

マニフェスト大賞のフェイスブックページの記事を以下に転載します。

【マニフェスト大賞6】優秀マニフェスト賞の議会部門は「黒川勝（くろかわ・まさる）横浜市議員」が最優秀賞に選出されました。議会部門で個人が受賞するのは初めて。選挙にあたってアンケートで区民ニーズをつかみ、それを元に地域別を含むマニフェストを作成。判りやすく成果・課題・将来像を公開しています。

黒川市議は、「私が受賞しているのかなと思いますが…。私は

最優秀マニフェスト賞を受賞!



最優秀賞の受賞は予期しなかったそうで受賞スピーチは全く覚えていないそうです

1つひとつ、初めての選挙からやるべきことを市民に伝え、活動してきました。表彰いただけるのは、会派での活動も評価いただいた結果だと思います。また、同じ志の全国の仲間から刺激を受けて、マニフェストは作成できたのだと思います。これからも引き続き頑張ります。」と意気込みを語りました。

塚本壽雄審査委員は「この賞

は政策本位の選挙と、議会運営が本旨。いま有権者のみなさんに政治への関心を掻き立てられることを求められているが、選挙ごとのマニフェストのブラッシュアップやパネル作戦など、活動が評価された。横浜市の議会改革の中心人物である黒川議員の先進的な活動に今後も期待したい」と講評を述べました。（青）



黒川まさる市会議員の タウンニュースの記事を紹介します



市政報告 未来のため責任ある政治を

横浜市会議員 黒川まさる

横浜市の子算決算の審議は、市長と直接議論を行う総合審査と担当部局ごとの局別審査があり、横濱環状南線、平成32年度に横濱環状南線が開通すると、並木・福浦から釜利谷ジャンクションを抜けて横濱湘南道路、今月13日、一年半振りに決算特別委員会で道路局がみ縦貫道を経て海老名

東名高速、さらには圏外道として中央高速など東京から放射状に延びる高速道路と次々に接続します。これを契機に金沢臨海部をはじめとする横浜市南部地域の経済・観光・物流・産業振興・人口減少対策などの集中的な強化策の実行を訴えました。

片吹地区では地元のみならずの熱心な努力によって、新たなバス路線がスタートしました。利用者の安定的な確保以外にも持続可能な收支の均衡のために、運賃

以上の収入源が必要で、治線の商業地域や医療・福祉施設などに協力いただき、地域全体でみんなのためのバスを育て、片吹地区の成功事例を市内各地に広げていこうと提案しました。

平成30年度に金沢八景の新駅が京急と接続するシーサイドラインは、32年度より横浜市からの貸付金の返済が始まります。沿線のみなさんから様々な返済資金は沿線に還元すべきと提案しました。以前から訴えてきた通学定期の値下げは来年度から実現しますが、高齢化が進む並木地区への子育て世代の帰郷のため、さらなる値下げを引き続き求めてまいります。

市政報告 リーダー力の必要性を痛感

横浜市会議員 黒川まさる

私が以前に代表を務めた超党派の全国組織「ローカ ルマニフェスト推進地方議 員連盟」の有志9人で6月 末、熊本を視察しました。

大西一史熊本市長もこの組織で代表を務めた親友で、「私たちに何が出来るか」と尋ねると「百聞は一見に如かず」と言われ、私 が団長となって被災地を訪 問しました。訪問に際し、 議員連盟の仲間である早田 順一熊本県議、来海恵子合 志市議、服部香代山鹿市議 には移動手段・訪問先の選 定・道案内などすべてお世 話になりました。

初日は西原村で内田安弘 副村長に、崇城大学ポラン ティアピレッジで三城代表 らに話を聞き、阿蘇神社や 西原村の家の崩壊や断層 の様子を視察しました。

翌日はY.M.C.A.が運営す る益城町総合体育館避難 所、元町会議員の中村友史

がリーダーを務める益城中 央小体育館避難所を訪ねて話を聞きました。熊本市役所では大西市長から一時間の講義を受け、熊本市議会では田嶋議長と意見交換をして、益城町の被災地と、熊本城も案内して頂きました。

今回の視察を通して学んだことは、大震災ではトッ プの人間力が人々の命を守るといふことです。

「東日本大震災で被災自治体に派遣した職員が活躍をしてくれた」「東北から派遣された職員が首長の陣頭指揮を助けてくれた」「国や県からの連絡を待つよりも、首長の個人的な人間関係からの直接支援の方が機能した」「日ごとにニーズが変化し続ける状況では、首

長が責任を取るといふ強い覚悟が周りのスタッフにも影響する」「避難所では次の自立も踏まえて出来ることは自分たちだけでやる」といった現場でしか聞けないナマの声に接しました。

横浜市も議員提案による「災害時自助共助条例」や「横浜市防災憲章」など、制度的な整備や備蓄が進んでいますが、熊本には発災直後から多くの物資や職員が送られて続けています。私たちが経験値を高め、どんな状況でも的確に迅速に判断が下せる体制や対応力を常に磨き続ける必要性を痛感しました。

※視察の詳細は政策広報誌で報告します

10月27日号では、秋の議会での道路局への質問を市政報告としてレポートしています。

7月14日号では、熊本地震から一か月半後に熊本を視察した報告をレポートしています。

シーサイドライン 通学定期値下げへ

来年4月から最大30%に

横濱シーサイドラインは10月13日、来年4月1日から通学定期券を、値下げすることを発表しました。

これにより、1カ月の通学定期乗車券（中学生以上の大人）の割引率は、現在の平均53・5%から一律65%に引き上げ、例えば2km

区間の1カ月定期では、現在の6900円から4830円となり、2070円の値下げとなる。家計への負担を軽くするとともに、横浜市が推進する子育て世代の移住を促し、沿線活性化を進めたいと考えた。

だが依然、民間鉄道各社との価格差は大きい。団地住民が多く住む並木中央駅から金沢八景駅に通う場合、通学定期代は料金改定後のシーサイドラインで6510円と

なるが、京急線京急富岡駅から金沢八景駅までの1940円と比べると、未だ4570円の差がある。

2014年春から一貫して値下げを求めてきた黒川勝市会議員は一定の評価をしつつも、「高齢化が進む並木に子育て世代を呼び戻すには、大幅な割引で利用者を増やし減収分を補うという発想も必要」と訴える。同社担当者は「普通乗車券の料金からして差があるため、一律65%以上の引き上げは考えていない。営業収支を見ながら検討していく」と話した。

横濱シーサイドラインは横濱市の外郭団体として1989年に開業。定期券価格の改定は、開業以来初

10月27日号では、シーサイドライン通学定期の値下げについてコメントをしています。

おまけ

二元代表制の一貫の担い手
市長と行政の動きをチェック
議会・議員からの政策立案

小選挙区制の地方分権改革の進展 → 単独市内の地方自治体
2000年 地方分権一法 機関委任事務 → 自治体
地方制度法改正（現在31条） 議員制度、大規模市制

政治資金規正法改正 コンプライアンス意識の高
められ、財源での緊縮財政、世代交代の進
捗性の確保、議員の政率と能力の向上、開かれた
議員選挙の実現

頑張る議員は認められるへ

10月3日、関東学院大学六浦キャンパスで学生に向けて120分間講義を行いました。政治家としての取り組みを熱心に話しました。